

2017 夏山第一弾 2017/07/15SAT-17/MON

笹の広場の好展望・南木曾岳 1,676.9m

穏やかな山頂・奥三界岳 1,810.7m

岩と花の静かな縦走路・南駒ヶ岳 2,841m から
越百山 2,613.6m へ

山の虫クレマントクラブ（略称 YMCC） 川原健一 同行：川原薫・瑞恵

最近マイカーを駆使して、遠近問わず山麓の道の駅や登山口まで走り、麓（車中）泊、日帰りのピークハントを楽しんでいる。梅雨が明けないが、海の日で3連休になるこの時期を利用して東北の山を目指した。ところが直前の天気予報は思わしくなく、比較的天候が安定しそうな中央アルプスあたりに、急遽目的地を代えた。

■7月15日・土曜日・雨のち晴れ

朝から車で名神高速道路を走る。小牧辺りでもものすごい雨。局地的短時間大雨の真ただ中を走ったようだと思われ。降水量 120mm/h とのこと。かつて某実験センターで 50mm の雨を体験したが、それ以上の雨に以降何回見舞われたことか。もはや 50mm では驚きもしない。

馬籠は晴れて、平日にもかかわらず観光客が多い。過去に訪れたので通り過ぎ、南木曾岳登山口へ。今日の天気はもう一つで、初日を潰さぬよう登ろうとするも果たせない。今日はマッターリしようと道の駅へ向かう途中、南木曾大橋を渡った先で、道路標識に「田立の滝」とあるのを見つけ、信号を右の坂道へ逸れる。キャンプ場を抜け、登り詰めたところに田立の滝の滝見道（登山道）入口があった。今日は足元が悪いし、気持ちも入っていないので、登山口の偵察のみにとどめる。田立の滝は溪流に幾つも懸る滝群の総称であり、見るだけでなく遡行ができそう。次回の楽しみとし、登山口を後にした。

この日は道の駅「きりら坂下」で車中泊。

ここは敷地内にスーパーがあって便利。地元の人買い物のために頻繁に出入りがある。夜は暑くて、窓を開けないと眠れなかった。

南木曾岳

南木曾岳は 200 名山にカウントされる。

昨日偵察した登山口の駐車場に車を止め、出発。遊歩道を逸れて近道登山道へ。林道に戻り、登り下りの分岐点は左へ登る。昨日の雨で湿った登山道だが登りにくいことはない。喉の滝を覗き、朽ちて危なっかしい木道が大岩の周りを幾度かへつり、高みへと導く。途中で恵那山やカブト岩が見える。



避難小屋近くの広場から南ALPSと中央ALPSを望む

山頂 1,676.9m は木々に囲まれた登山道の途中のような平地。その先、展望岩から見事な景色が展開される。御岳、乗鞍、展望岩の先は笹原の登山道に立ち枯れが佇み、その先に木曾駒、空木の中央アルプスが広がる。南木曾岳避難小屋は明るい気持ちの良い室内。別棟のトイレはバイオ処理で清潔そう（中は覗けなかった）。少し登り返

すと展望（摩利支天？）広場となり、ここからの中央アルプス、南アルプスの展望は素晴らしい。

いつまでも留まっていたい場所だが帰ろう。水場を過ぎ、下り専用道なので誰にも会わず分岐点に到達。まだ午前中なので、こからいくつかのパーティとすれ違う。登山口の近くの男滝雌滝を見学し、車に戻る。

登山口 P 05:40

07:40 南木曾岳

08:20 避難小屋

10:15 登山口 P

田立の滝



天河滝上部を望む

さて、今日はまだ時間があるが、どうしようか？昨日行った田立の滝に行こう。そうするか。誰も反対はしない。田立の滝はピークの不動岩展望台まで歩くと3時間半くらいのコースタイムの滝見道との登山口の案内。クマ出没中とのことで熊鈴は外さずに歩く。前半は沢から外れているが、後半は沢沿いから沢に入り、見事な大滝を觀賞できる素晴らしいルートだ。この沢は遡行も楽しそうで、心が騒ぐ。しかし、幾つかの滝は上部までの登攀はかなり困難かもしれない。不動岩展望台は下流から見ると遥か高みにあったが、ついつい登ってしまった。帰りは同じルートでも違った景色が見える。いたる所でゆったりと泳ぐ岩魚(禁漁区)を眺めながらゆっくりと下った。

保健福祉施設「かたらいの里」で温泉に入り、道の駅「きりら坂下」で買い出し。この夜は道の駅「五木(ごぼく)のやかた・

かわうえ」の小さなベンチで小宴を催し、車中泊。蛍が飛び、涼しく静かな小さな道の駅だった。

登山口 P 11:50

13:09 天河滝

14:10 不動岩展望台

15:15 登山口 P

■7月16日・日曜日・晴れ

奥三界岳

奥三界岳（奥三界山ともいうようだ）は300名山にカウントされる。

川上林道ゲートから銅穴の滝を経、夕森田立合流点へ向かうのが一般的なルートのようなが、私達は何を勘違いしたか、別な林道をずいぶん奥まで車で入り、歩き始めた。合流点を過ぎたあたりで休憩していると、後から年配の男性が日傘をさして一人歩いてきた。駐車場には我々しか入っていなかったのに、追いついてくるとはずいぶん速いなと思いながら言葉を交わすと、彼も自分が一番早かったはずということで、登山口が違うことが分かった。目的地は一緒、奥三界岳だ。私たちは先に歩き出す。

国土地理院地形図は山道が始まるまで林道が続いているが、標識は昇龍の滝手前で迂回路の山道へいざなう。その山道が平坦になると所々コンクリートの舗装が現れる。ひょっとしてここは昔登山道だったのか、そんな気配の山道である。廃屋が現れたところで林道跡道は終わり、登山道が始まる。急な登山道をしばらく登ると尾根に出て笹原となる。足元から緩い谷を隔てて向うの尾根まで続く笹原は見事だ。

水場を過ぎて沢筋に入り、もう一度尾根に入ると樹林帯となり、涼しい登山道となる。途中、水芭蕉の小群生地があり、やがて奥三界岳山頂 1,810.7m に至った。山頂には朽ちた展望台があるが、この日はややガスっていて展望はもう一つだった。

下山途中に3パーティほどに出会ったので、奥深いとはいえやはり300名山なのだ

と感心した。帰りの林道ではだれにも会わず、車一台だけが待つゲートに戻った。

昨日の「かたらいの里」で温泉。道の駅「賤母（しずも）」に泊まろうとしたが、暑さと騒音に耐え切れず、伊奈川ダム上登山口駐車場へ移動。車3台ほどが停まっていたが、全部山に入っていたらしく無人。静かで涼しい中で眠ることができた。

林道ゲート 06:45

8:30 迂回路取付

10:20 奥三界岳山頂 11:00

12:00 迂回路取付

13:35 林道ゲート

■7月17日・月曜日・晴れ

南駒ケ岳から超百山へ

南駒ケ岳、超百山（こすもやま）、共に200名山である。

登山口から超百山を経南駒ケ岳の往復をガイドブックは2泊3日で紹介しているので、1泊分の水・食糧とツェルト等の泊まり装備を持ち出発。コースは北沢尾根から南駒ケ岳を経、超百山から遠見尾根（超百避難小屋経由）下山の周回コースとした。

2003年発行の昭文社地図に北沢尾根下部はササヤブ歩行困難とある。また、最近のガイドブックにはルートファインディング能力必要とある。しかし、現地は実際はよく踏まれていて、少し注意すれば（上部岩場当たりで）ルートファインディングに迷うこともなかった。

2,400m 辺りから視界が開け、稜線が見えてくる。ゴゼンタチバナやマイズルソウ、ハクサンチドリ、ミヤマキンポウゲ、ウラジロホウラク、イワカガミ、シャクナゲなどの高山植物を楽しみながら高度を上げる。2,450m 辺りからは高木は消え、視界が開ける。

空木岳を北西へ下った鞍部に木曾殿山荘山荘が見える。過去に大田切川を遡行し、あそこに至ったことがあった。2,610m 付

近、ナナカマドの花が満開で、花越しに遠く宝剣岳の鋭鋒が望める。南側の谷から雲が湧くが、稜線を捉えることはない。2,620m 辺りから岩場が現れ、歩き易くなる。大岩の上や間を歩くとやがて南駒ケ岳山頂2,841mに至った。

誰もいない。晴天の元の360度の大展望。宝剣からの稜線が、振り返ると越百山の先まで続く。お湯を沸かし、お定まりのカップ麺を食す。眼下の播鉢窪避難小屋から若い女性が一人、空荷で上がってきた。そしてまた誰もいない。

山頂からの展望を十分楽しんだので越百山へ向かう。雷の心配はない。越百山から林道までの下山に4時間を要するとある。林道は暗くなってもよいが、山道は明るいうちに歩きたい。越百山には14時までに到着したい。



這松と高山植物と岩の縦走路を行く

仙涯嶺（せんがいれい）2,734m までは急勾配のアップダウンだが特に問題はない。そこから先はたおやかな稜線となり、花と花崗岩と這い松のプロムナードを楽しみ、写真を撮りながら越百山頂2,613.2mに至った。ここはかつて与田切川中小川を遡行し登頂した。その時は早朝、雨上がりだったが、今日は始終よく晴れてくれた。数枚の写真を撮り山頂を後にする。



南駒ヶ岳から空木岳を望む

越百の避難小屋は人の気配はするが声を掛けても返答がない。10分ほど休憩し下る。長い樹林帯をトントンと下り、思ったより早く、明るいうちに林道に出、大粒の俄雨

は来たが、暗くならないうちに登山口駐車場に帰ることができた。

もう一日休暇があったが、今回はこれまでとし、帰路に就いた。

登山口 P 05:15

05:55 遠見尾根分岐

06:30 北沢尾根取付

09:10 2,411.3m 見晴らし台

11:15 南駒ヶ岳山頂 11:55

12:55 仙涯嶺

14:00 越百山 14:15

16:55 林道

17:30 登山口 P